

〔連載⑥〕

# 現代社会解体新書

第6回 公共心と日本人気質

DAS ジャパン

萩原 睦幸

最近よく目にするのが、駅の改札口付近で若者が車座になって談笑している姿です。当の本人達は大きな声で楽しく会話を楽しんでいるのですが、人通りの多い改札口付近では通行の妨げになっているのは間違いありません。通行人は大きな車座の中に入りこむのも気が引けて、迂回しながら改札口を目指しています。

また、街中に何か所か設けられた喫煙コーナーも同じような現象が見られました。吸い殻入れを中心に喫煙者が歩道一杯に広がり、これまた一般の通行人には大きな迷惑になっています。駅の改札口も街中の歩道も、たくさんの人が行き来する「公道」です。公道は文字のごとく、住民皆が利用するためにあり、決して一部の人が独占してよいものではありません。世の中は、自宅を一步出るとあらゆるところが公共の場だと気が付きます。

市道、県道、国道、公園、河川、図書館、公民館、学校、病院、スポーツ施設など、人々が共同で利用できる場所や施設はすべて公共の場です。そして、これらの公共の場を維持管理するために、国民の税金が使われています。人々が利用すればするほど、公共の場は汚され、また施設は老朽化して行きます。人間はつい、個人の所有物以外は粗末に扱いがちですが、公共のものを大事にしなければ、結局は国民の負担として跳ね返ってくるわけです。

## ●高速料金の無料化

民主党のマニフェストの目玉である「高速道路料金の無料化」が頓挫しつつあります。東日本大震災の復興にその資金を回すとのことですが、そもそもこの無料化が必要だったのか大いに疑問です。ご存知のように、高速道路は料金さえ支払

えば、国民皆が利用できる公共の道路です。たくさんの方が利用すればするほど、道路は傷み、そのための維持費用が発生します。その維持費用の財源に充てられるのが、利用者から徴収された高速料金なのです。

「休日千円」の施策は一見成功したように見えました。ほとんどの国民には不評に終わりました。料金が安いために利用者が殺到し、休日はどこの高速道路も大混雑になり、40～50キロの渋滞が当たり前になってしまいました。目的地に到着するまでに1日がかかりでは、本来の高速道路の意味をなしません。早く目的地に到着したいのと、一般道路の混雑を避け快適に走りたいためであるのに、高速道路に乗ったことで、逆に大渋滞に巻き込まれてしまうのでは、利用者はまたあらたなストレスを感じてしまうでしょう。まさに高速料金の無料化は民主党の大失敗で、いわゆるバラマキ政策といわれても仕方がないと思われます。このあたりで本来の料金体系に戻し、利用者は道路を利用した分、相応の料金を支払うのが、公平性の面からも納得できる考え方だと思います。

長い距離を乗ればそれだけ道路の傷みを伴うわけですから、利用者はその維持料金を支払うのは当然のことでしょう。

## ●公共心が育たない理由

今始まったことではありませんが、昨今の公共心・道徳心の欠如は目に余るものがあります。我先にと電車内の座席確保に必死になる若者、老人などお構いなしにシルバーシートに陣取る若者、イヤホンから音漏れ平気な若者、歩きながら携帯片手にゲームに熱中する若者、道一杯に広がりながら闊歩する若者など、他人に迷惑をかけても意に介しません。他人に迷惑をかける行為がどのよ

うなものか、やはり誰かが「公共の場でのあり方」を教えることが必要です。では公共心・道徳心はなぜ若者に身につかないのでしょうか？

それはやはり生活の基本となる「家庭」にあると思います。最近の親はあまり腹を立てなくなりました。昔の頑固おやじや肝っ玉母さんのような人はどこへ行ってしまったのでしょうか？ それに加え、世の中少子化が進み、兄弟が3人以上の家庭はものめずらしがられる時代となりました。従いまして、一人ひとりの子供が大切に育てられて、まさに過保護の一途をたどります。そして甘やかされた子供は、世の中すべて自分の思い通りになるのでは、と錯覚し始めます。欲しいものがあれば何でも両親が買ってくれ、その上やさしい祖父母も協力してくれるでしょう。

さて子供の世代は、なかなか善悪の判断がつかないものです。

シルバーシートになぜ若者が座ってはいけないのか、なぜ公共のものを大事に扱わなければならないのかなどを、例を引きながら説明してあげる必要があるのです。そうすることで、若者に気づかせ、老人に席を譲る意味を理解します。一番身近な両親がそのことを目の前で実践してみせることで、子供の公共心・道徳心は育まれます。

## ●老人を敬う

「目には目を歯には歯を」という言葉は、一般的には良い意味では使われないようですが、何かを実体験する意味では、欠かせないやり方ではないかと思われまます。

前述の若者の迷惑行為に関する件でも、「もし自分が逆の立場だったら」と若者自身が考えられるかどうかです。もし自分が通行人だったら、もし自分が老人だったら、もし自分が体が不自由だったら、今の行為は許されるのだろうかと自問自答してみることで、人の心の傷みが理解できる



のではないのでしょうか？

韓国の友人の話では、韓国は日本よりもずっとお年寄りを大事にしているとのこと。昔からの「儒教の教え」からきているようですが、皆があまり意識することなく自然にそうしているようです。逆にそうしないと周りから非難の目で見られるようで、同じ儒教の国である日本とのこの差はどこからきているのか、あらためて考えさせられてしまいます。

タイやインドネシアでも同じように、老人を大変敬い大切にしています。

実は日本でも、戦前は年寄りを敬うことがごく一般的に行われていました。一家の家父長は祖父が担い、それが代々受け継がれて行きました。しかし、戦後はまるで手のひらを返したように、今までの伝統や習慣が一変してしまいました。年寄りや先輩だからといって、それは尊敬の対象ではなく、その人が世の中にどの程度役立ち貢献しているかで、人間の価値が判断されるようになってしまったのです。これはたぶん、戦勝国である米国や英国の価値観が影響していると思われる。特に米国はドライで効率主義の国として知られ、世の中に何の価値も生まないものや人間は、あっさり切り捨ててしまうところがあります。この国は、個人が今現在どのような状況にあるのかが常に問われます。効率や実力を重んじる意味では正解なのでしょうが、これではいつも追い立

てられているようで、気持ちは落ち着きません。

米国の今年のオールスターゲームに、「イチロー」は選ばれませんでした。今年はシーズン当初から打撃が不振で、年間200本安打も危ぶまれています。まさかの落選に日本人ファンはがっかりしている人が少なくないでしょう。ここにも米国人の今日現在の実績を重要視するドライさが出ています。今までの「10年連続の200本安打達成」の偉業はどこへ行ってしまったのでしょうか？

### ●国旗掲揚時の起立問題

今、国旗掲揚時の教師の起立問題が大きな話題になっていますが、これも戦後の反動が大きな要素を占めているようです。確かに先の戦争で多数の尊い国民の命が奪われたことは、わが国に大きな禍根を残しました。そのせいもあってか、戦後は、戦勝国の米国の影響もあり、戦前のすべてのことが否定されてしまいました。日本は世界でも稀有の天皇制が太古の昔から引き継がれている国として知られています。天照大御神から始まり、現在の今上天皇まで125代にわたり、連綿と受け継がれてきています。一方、中国は3000年の歴史があり、日本よりはずっと古いのですが、唐、宋、秦などさまざまな国が入り代わっていますので、日本のように一代も途切れることなく、同じ国が引き継がれてきているのとわけが違います。このように世界的にみても素晴らしい歴史と伝統の国を、先の戦争であっさり否定してしまったのでは、その損害は計り知れません。

さて、国旗掲揚について国旗に敬意を表することは、前述の日本という生い立ちを考えるときわめて重要なことだと思います。世界は国家という単位で国境を定め、さまざまな取り決めのもとに独自に活動をしていることを思えば、その国の象徴である国旗を敬うのはごく自然な気持ちではないのでしょうか？

先日の最高裁の判決でも、裁判官は「起立の強制は思想・良心の自由を保障する憲法に違反しない」という結論を下し、原告側の上告を却下しています。

これは、国旗の重みというものを万人に知らしめたきわめて重要な判決ではないかといわれています。

歴史を紐解けば、日本の江戸時代は鎖国制度が敷かれていましたが、世界で最もレベルの高い文化が開花した時代でもあったともいわれています。当時の200～300年は元禄文化といわれ、朱子学、自然科学、古典、陶芸、義太夫、生田流箏曲、浄瑠璃、長唄などがもてはやされました。ということから、日本の江戸時代を中心とした歴史を研究・検証したいという外国の研究者・文化人が最近増えているそうです。あらためて日本の歴史や伝統の良さを世界にアピールするよい機会でもあると思います。

### ●我慢強い日本人

今回の東日本大震災で、被災した日本人の考え方や行動が世界の注目を浴びました。一般的に、このような有事の時には、現場は混乱し、略奪や犯罪が多発するというのが世界の常識にもかかわらず、救援物資の受け取りには冷静に整列し、不満があっても口にせずお互い協力し、どうにかこの苦難を乗り越えようとする人々の光景が、世界の人々の感動と涙を誘ったとのこと。ところで、わが国は毎年3万人を超える自殺大国といわれています。なぜ、このような我慢と謙虚の国民性が、みな精神的な苦勞を内に溜め込み、うつ状態になりやがては自殺という手段を選んでしまうのでしょうか？

外国人からの見方は、日本人の良さは控えめで、謙虚というのが一般的な日本人像だそうです。それに比べあらゆる面で自己主張が強い欧米人。日本人同士のやり取りでは控えめや謙虚さはよい印象を持たれますが、諸外国とのやり取りは、相手にこちらの気持をはっきりと伝えることが重要だと思われます。ある外国人は、「こちらの説明に日本人はうなずいてにこにこしているのすっかり理解してもらった」と思っていたら、よい印象を持たれたい一心で、ただニコニコしているだけだったということががっかりしたといいます。

外国人とのコミュニケーションは、日本人の語学力の稚拙さもあるようですが、やはりわからないところははっきりと伝え、誤解を生まない「コミュニケーション力」は必要だと思われます。それにしても日本人の語学力は、何時まで経っても

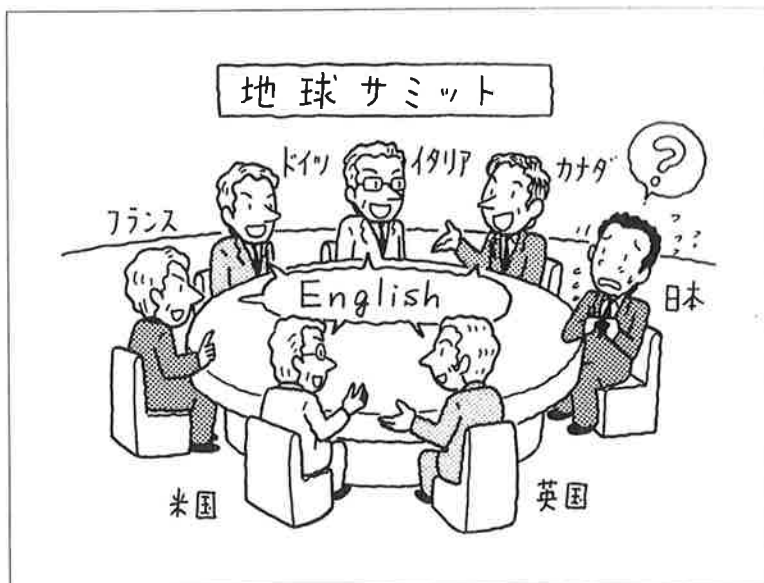
なぜ上達しないのでしょうか？

単一国家の弊害と、日常生活で外国人との交流が極端に少ない生活環境が本当のところではないかと思われます。それに「恥の文化」も大きく影響しているでしょう。このようなことを言ったら恥ずかしい、発音がネイティブではないので通じない、単語をよく知らないので話したらバカにされる、など会話をする前に構えてしまう日本人は少なくありません。「英語は度胸」というのはある意味では当たっています。少々粗削りでも、とにかくしゃべってみる。通じなかったら手振りも交えてとにかく挑戦してみるという厚かましさ、時には必要なのです。身振りと単語を並べたら、こちらの思いが通じたなんてことはよくあることです。同じ人間なので、どのような国であれ、皆考えていることは似たり寄つたりのことがままあるのです。もともと外国語はこちらの母国語ではないのですから、ネイティブの発音などできないのは当たり前です。相手もそのように受け止めてくれていますから、まずは一生懸命こちらの思いを伝えることに集中することで、外人とのコミュニケーションの道は開けてくるものと思われます。

## ●日本の発信力

このたびの大震災で100か国を超える世界の国々が日本に援助の手を差し伸べてくれました。おそらくこれだけ世界から好かれている国はないかと思われます。にもかかわらず、さまざまな分野で我が国の発信力が稚拙で不足しているように思えます。例えば日本語は世界ではきわめてマイナーな言語で、日本以外に通じるのは、日本人がよく出かける一部の世界の観光地ぐらいに限定されているのが本音でしょう。

世界で米国に次ぐビッグな経済大国でありながら、その存在感はあまりにも小さすぎます。前述の言語の壁もありますが、そもそも国際人として



の人材育成が不足しているのも大きな要因だと思われれます。今の若者が外国に行きたがらないとのことですが、世界の国々の距離は縮まり、通信技術や交通手段は驚くほど進化し、世の中は間違いなく国際化に進んでいます。最近街中でもさまざまな国の人を見かけるようになりました。日本でも社内の公用語を英語とする企業がやっとなじみましたが、韓国や中国では、はるか昔にこの手の企業はありました。日本は技術力も人間性も申し分なく、国民全体の教育レベルもトップクラスなのに、「恥と遠慮」が大きな妨げになっているのも事実なのです。世界の重要な先進国が一堂に会するサミットでも、わが国のトップは、稚拙な語学力と変な遠慮で世界の後塵を拝することがしばしばです。一方世界を見渡せば、日本のさまざまな製品が世界中にあふれ、その品質の高さは、現在でも他の国を寄せつけません。今後国際化の波は、益々加速されるでしょう。それに逆行するような昨今の若者の行動に、何としても歯止めをかける施策が必要なのです。

「Boys, be ambitious !」はいつの世も必要なことです。

### 執筆者

萩原 睦幸(はぎわら むつゆき)  
DASジャパン株式会社 代表取締役  
TEL : 03-6666-0501 FAX : 03-6666-0594  
Email : info@das-japan.jp